

特別活動 (中学校)

特別活動の移行措置への対応はどうか。

1 移行措置の基本的な考え方

中学校特別活動においては、移行措置において「新中学校学習指導要領の規定によるもの」としており、**平成21年度から先行して実施**することになる。このことにより、各学校においては、**本年度中に新学習指導要領に即した特別活動の指導計画を作成**して、平成21年度から**確実な実施に努める**必要がある。

2 移行期の特別活動実施の視点

- (1) 特別活動の役割やその他の重要性を認識するとともに、学習指導要領改訂の趣旨や改善の方針について、全教職員が共通理解すること。
- (2) 新学習指導要領に即して、具体的に指導計画を改善すること。
- (3) 特別活動は、一部の熱心な教師の取組だけでは成果が上がらないことを十分に認識して、全教職員による共通理解の下での組織的な指導が行われること。

特別活動は、道徳や総合的な学習の時間など他の教育活動との関連が深いので、**学校のカリキュラムの全体像や教育活動相互の関連を十分視野に入れながら**、学校の教育計画の全体における特別活動の位置付けを明確にした全体計画や年間指導計画の作成・実施が求められる。

3 移行期間における主な取組

(1) 各内容の目標やねらいを明確にした年間指導計画の作成と実施

中学校の特別活動が、学級活動、生徒会活動及び学校行事の三つの内容から構成されることは従来どおり。

特別活動のねらいや教育的意義を明確にする観点から目標の見直しを行った。

- ・ 全体の目標
望ましい集団活動を通して個性の伸長と社会性の育成を目指すというこれまでのねらいを継承しながら、よりよい生活や人間関係の形成に主体的にかかわる教育活動としての意義を明確にした。
- ・ 各内容の目標
特別活動の各内容のねらいや意義を明確にするため、各内容で育てたい態度や能力を、全体の目標を受けて各内容の目標として新たに示した。

学校においては、このことを踏まえ、特別活動の各内容の年間指導計画を作成することが必要であり、**生徒の入学から卒業までの3学年間を見通した系統的・発展的な指導計画を作成することが必要**である。

特に、**学級活動では**、各学年において取り上げる**指導内容の重点化**を図るとともに、必要に応じて、内容間の関連や統合なども図って、学級や学校の生活の充実向上と生徒が当面する諸課題への対応に資する活動を展開していくことが求められる。

また、各内容の年間指導計画の作成に当たっては、**学級活動・生徒会活動・学校行事の内容相互の関連を図るように工夫**し、生徒の学級や学校の生活の充実と発展に資する教育活動を学校全体で展開していくことが重要である。

(2) 生徒の発達の段階や課題に即した自主的、実践的な活動の充実

特別活動は、「なすことによって学ぶ」という実践的な活動であり、生徒がよりよい生活や人間関係の形成に主体的に取り組むことを通して、豊かな人間性や社会性を養う教育活動である。

そのためには、次のことが大切になってくる。

集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動
自分たちできまりをつくって守る活動
人間関係を形成する力を養う活動
などを充実するよう工夫することが求められる。

こうした諸活動の充実にあたっては、

小学校における特別活動の指導との接続や子どもたちのこれまでの活動の経験や成果を十分に生かしていくこと
その上で、中学生の心身の発達の段階や直面する課題に即して、話し合い活動を活発にする様々な工夫と実践を行うこと
生活のきまりや生徒会の規約等を主体的に考える場や機会の設定
人間関係を円滑にし、高めていくための社会的スキルを学ぶ活動の設定などの学級活動や生徒会活動の年間指導計画を作成すること
また、こうしたよりよい生活を築くための諸活動は、学校行事においても生かされていく面があることに留意する。

(3) 他の教育活動との有機的な関連を図った特別活動の全体計画の作成と実施

特別活動の全体計画作成にあたっては、各教科、道徳、総合的な学習の時間などの指導との有機的な関連を図り、より教育的意義の高い教育活動を展開していくことが必要である。例えば

学級活動においては、道徳の時間との関連を図りながら、学級や学校の生活の充実向上や当面する諸課題にかかわる生徒の自主的、実践的な活動を通して、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方について自覚を深めることができる。

学校行事においては、公共の精神の育成など、道徳教育の目標を踏まえた教育活動の深化が大切である。

総合的な学習の時間においては、学校行事における勤労生産・奉仕的行事などと関連する部分が多い。例えば、職場体験などは、総合的な学習の時間でも積極的に取り入れていくことが求められている。

特別活動と総合的な学習の時間の目標やねらいを明確にしつつ、両者の教育活動を有機的に関連させ、より教育的意義の高い体験活動を展開していくことが重要である。そのためにも、学校のカリキュラムの全体像を視野に入れ、特別活動の全体計画を作成していく必要がある。